

## 大谷大学大学院人文学研究科

## 大学院特別セミナーのご案内

## ■大学院特別セミナー

本学ならではの資産である仏教研究の蓄積と成果をもとに、仏教学・人文科学・社会科学の学術研究の高度化と国際交流を図るために、本学大学院では、国内外において学界の第一線で活躍しておられる研究者を客員教授として招き、特別セミナーを開講しています。このセミナーは他大学の研究者や大学院生にも開放しており、本学大学院が国際的水準の学術交流の場となることを目指しています。

## ■講師

本学客員教授 下田 正弘 氏（武蔵野大学教授・東京大学名誉教授）

## 【略歴】

1957年、福岡県生まれ。東京大学において仏教学を専攻し、1994年に大乘涅槃經に関する論文で博士号を取得。東京大学教授を経て、現在は武蔵野大学教授、東京大学名誉教授。大乘經典研究において画期的な方法論に基づく学説を展開しており、主著『涅槃經の研究—大乘經典の研究手法試論』（春秋社、1997年）は学界で高い評価を受けている。また近年の著書として、テキスト論を応用的に取り入れながら大乘經典出現の背景に光を当てた『仏教とエクリチュール—大乘經典の起源と形成』（東京大学出版会、2020年）がある。これらと並行して、大正新脩大蔵經テキストデータベース構築の仕事にも長年中心的に関わり、日本におけるデジタル・ヒューマニティーズの分野を牽引している。



## ■集中講義

日時：9月3日(火)・4日(水)・5日(木)・~~9日(月)~~・10日(火)・11日(水)・12日(木)・13日(金)13:00~16:10

※公開講演会の日程変更に伴い、9月9日は公開講演会のみ開講となります。

参加資格：大学院生、講義テーマに関する研究に従事もしくは関心のある研究者

\*参加を希望される方は、8月30日（金）までに本学学生支援部教務課までお問い合わせ下さい。

## ■授業テーマ

聖典としての仏教を問う——存在論を超えて現れる「意味」——

## ■授業概要

大乘仏教の起源をめぐる研究は、現在、複数の仮説が林立していて、ひとつに収束する気配がありません。ここにおける真の課題は、これらの仮説のいずれが正しいかを判定することにあるのではなく、現在の学界におけるこうした研究状況がなにゆえに生まれてきているかを追跡し、その過程で仏典からいかなる意味がどのような方法で抽出されているか、その実態を明らかにするところにあります。

仏典から「意味」がどのように現れるか——この問いを問うことは、現在の仏教学や伝統的な真宗学を問うのみならず、たとえば親鸞自身が仏典に向きあって問うた問いを問うことにかさなります。その解明は、仏典を解読する知識にとどまらず、存在、認識、言語を主題とする思想的営為を要求します。この講義では、大乘仏教研究の現状を、フッサール、ハイデガー、レヴィナス、デリダ、ガブリエル、さらにはホワイト、スミスなどの思想家が提示した問題領域から照らしなおしつつ、存在論に包摂しえない仏典の「意味」のありようについて考察をしてゆきます。

## ■公開講演会

日時：~~9月2日(月) 15:00~16:30~~ → 9月9日(月) 15:00~16:30

※台風の影響により、当初開催予定の9月2日から変更となりました。

講題：「仏教学を再考する—存在論を超えて—」

講師：下田正弘氏

場所：大谷大学慶間館1階 K101教室（京都市北区小山上総町）

\*事前登録等不要、一般来聴歓迎

問い合わせ

大谷大学 学生支援部教務課

TEL: 075-411-8117 (直通) 【受付時間】 9:00~13:00 14:00~17:00

(月曜日~金曜日/土・日・祝日および大学で定める休業日を除く)